

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	看護学概論		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する 2. 人間のライフサイクルにおける健康の意義について学ぶ 3. 看護の本質を理解し、総合保健医療体系の中で、看護の概念を明確にする 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のありかたを学ぶ 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	看護の本質および看護の概念	1. 看護の本質 2. 看護の役割と機能 3. 看護理論家の看護概念		講義	①
2	看護の対象の理解	1. 人間のこころとからだ 2. 生涯発達し続ける存在としての人間			
3	国民の健康状態と生活	1. 健康とは 2. 国民の健康状態 3. 国民のライフサイクル			
4	看護の提供者	1. 職業としての看護 2. 看護職の資格・養成制度・就業状況 3. 継続教育とキャリア開発 4. 看護職の養成制度の課題			
5	看護における倫理	1. 職業倫理と看護倫理 2. 患者の意思決定支援と守秘義務 3. 倫理的ジレンマ			
6	看護提供のしくみ	1. サービスとしての看護 2. 看護提供の場とチーム医療 3. 継続看護 4. 看護をめぐる制度と施策 5. 看護サービスの管理 6. 医療安全と医療の質保証			
7	広がる看護の活動領域	1. 国際化と看護 2. 災害時における看護			
8	単位認定試験(45分)				
評価方法	筆記試験				
使用テキスト	・基礎看護学（1） 看護学概論 医学書院				
備考					

科目名	看護倫理		対象学生・時期	2年生・前期	
			講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	①外部講師				
科目目標	1. 看護者としての職業倫理を理解する 2. より良い看護の実現に向けた倫理的問題の分析および倫理的意思決定の方法を理解する 3. 生命を尊び、人権を尊重する精神に基づき人間としてのあり方、生き方について理解と思索を深め、倫理に基づいた行動がとれる能力を養う				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	看護倫理と職業倫理	1. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは 2) 看護倫理のアイデンティティ 3) 倫理綱領 4) 看護倫理の必要性 2. 職業倫理 1) 看護を取り巻く倫理的課題とその背景、歴史的推移		講義 グループ ワーク	①
2		3. 看護師の倫理規定 1) 看護師の責務 2) 看護実践に関わる倫理の原則 (1) 倫理の5原則 (2) ケアの倫理			
3	看護倫理と職業倫理	1. 看護倫理に関係する重要な言葉 1) 和 2) コンパッションー思いやりの心 3) 共感 4) 専門職 5) 対象を中心とした看護 6) 患者の尊厳 7) 看護アドボカシー			
4		8) 協力と協同 9) パターナリズム 10) 個人の権利 11) インフォームド・コンセント 12) 情報プライバシーと守秘義務 13) 災害におけるトリアージ			
5	看護活動と倫理	1. 人生の最後を生きる人々への看護と倫理 1) ケア提供の場 2) 治療 3) 医療者の2つの使命 4) 終末期医療にかかわる法令、指針			

		5) 安楽死、事前指示（リビング・ウィル）、アドバンス・ケア・プランニング、DNR		
6		6) 事例検討		
7		2. 地域看護と倫理 1) 地域看護の特徴 2) 地域看護の倫理的問題 3) 地域の看護師自身の倫理的問題 4) 倫理的問題に対応するためのアプローチ		
8		3. 小児看護と倫理 1) 子どもの権利と親の養育責任 2) 子どもの権利条約 3) 臓器移植を必要とする子どもの権利 4) 医療的ケアを必要とする子どもの教育を受ける権利 5) 日常のケア場面で生じる倫理的問題		
9		4. 精神科看護と倫理 1) 基本的人権と尊厳 2) 地域で暮らす権利 3) 自己決定を支援される権利		
10		5. 遺伝看護と倫理 1) 遺伝看護とは 2) 遺伝看護を必要としている対象 3) 看護師の倫理的葛藤		
11		6. 社会的要配慮者の看護と倫理 1) 認知症 (1) 意思決定への支援 (2) 行動制限に関する問題 (3) 家族介護者の課題と支援		
12		2) 難病 (ALS) (1) ALSとは (2) 倫理的意思決定を行う支援		

13		<p>7. 意思決定のプロセス</p> <p>1) 倫理的な気がかり</p> <p>2) 看護師の道徳的苦悩</p> <p>(1)道徳的不確か</p> <p>(2)道徳的ジレンマ</p> <p>(3)道徳的苦悩</p> <p>3) 4ステップモデル</p> <p>4) 事例検討の意義</p>		
14	看護研究における倫理	<p>1. 看護と研究</p> <p>2. 看護研究と主な指針</p> <p>3. 看護研究における倫理的配慮</p>		
15	単位認定試験 (45分) まとめ			
評価方法	筆記試験 課題			
使用テキスト	・看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 南江堂			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	共通基本技術		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	感染予防	1. 意義と基礎知識 1) 感染防止の基礎知識 2) 感染経路別予防策 3) 院内感染の防止		講義	①
		2. 標準予防策 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 (1)手指衛生 (2)個人防護用具			
		3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策			
		4. 手指衛生 ラビング法・スクラブ法		演習	
		5. 洗浄、消毒、滅菌 1) 洗浄、消毒、滅菌の基礎知識 2) 洗浄 3) 消毒と滅菌 6. 無菌操作 7. 感染性廃棄物の取り扱い 8. 針刺し防止策		講義	
2					
3					
4		9. 標準予防対策の実際		演習	
5		10. 無菌操作の実際			
6	安全確保	1. 安楽とは 2. 安楽の援助 1) 罨法 (1) 罨法とは (2) 罨法の目的と適応 (3) 罨法の種類		講義	

7		<p>2) 安楽な体位の保持</p> <p>(1) 基本的活動の基礎知識</p> <p>①姿勢と動作 ②良肢位</p> <p>③ポジショニング</p> <p>④ボディメカニクス</p> <p>(2) 体位の種類</p> <p>(3) 対象患者にとっての安楽な体位と 援助に必要な要素 (援助を行う際の 留意点)</p> <p>①同一体位による弊害</p> <p>②安楽な姿勢と体位の保持</p>		
8		<p>3. 体位変換の実際</p> <p>1) 臥床患者の体位変換</p> <p>(1) 技術の実際 (ポジショニング含)</p> <p>①水平移動: 横方向、上方向</p> <p>②仰臥位から側臥位</p> <p>③仰臥位から端坐位、長坐位</p> <p>2) 安楽な体位と援助に必要な要素</p>	演習	
9	人間関係発展の技術	<p>1. コミュニケーションの技術</p> <p>1) コミュニケーションとは</p> <p>2) 看護場面での効果的なコミュニケーション技術</p> <p>3) 対人関係の振り返り</p> <p>4) 看護と人権尊重</p>	講義	
10				
11	看護における観察 ・記録・報告	<p>1. 看護記録・報告</p> <p>1) 看護記録に関する法的規定</p> <p>2) 看護記録の目的と意義</p> <p>3) 看護記録の構成要素</p> <p>4) 看護記録の種類</p> <p>5) 看護記録の記載基準</p> <p>6) 看護記録および診療情報の取り扱い</p> <p>7) 看護学生の情報管理</p> <p>8) 報告の方法と種類</p>	講義	
12				
13	学習支援	<p>1. 教育指導技術</p> <p>1) 看護における教育的支援</p> <p>2) 患者と家族のセルフケアを支援する 看護活動</p> <p>3) 看護における指導技術</p>	講義 演習	
14				
15				

※ 時間外で実施	単位認定試験 (45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I 医学書院 ・ 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II 医学書院 			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	日常生活の援助技術Ⅰ～Ⅴ	対象学生・時期	1年生・前期	
		講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①教官☆			
科目目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する 2. 栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する 3. 療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する 4. 身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔保持の技術を習得する 5. 排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する 6. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する 7. さまざまな移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	環境	1. 療養生活の環境 1) 人間の健康と環境 2) 生活環境の調整（温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、プライバシー） 3) 病室環境 (1) 病室の構成 (2) 病院で働く人々 (3) 療養環境のアセスメント	講義	①
2		2. 療養環境の整備 1) ベッド周囲の環境整備 2) 臥床患者のリネン交換 (ベッドメイキング含む)	演習	
3	食事と栄養	1. 人間の健康と食事 1) 食事の意義 2) 健康な食生活 (1) 食事栄養摂取のしくみ、嚥下と咀嚼 (2) 消化吸収の仕組み 3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力および食欲、食に関する認識のアセスメント 5) 医療施設で提供される食事 (1) 食事の種類と形態 (2) 食事の提供方法	講義	

		<p>6) 食事の援助</p> <p>(1) 経口的栄養摂取の援助</p> <p>(2) 非経口的栄養摂取の援助</p> <p>2. 経鼻胃管挿入中患者の看護</p>	
4		<p>3. 食事・栄養摂取の援助</p> <p>1) 経鼻胃管栄養法 (挿入・抜去)</p>	演習
5	清潔・衣生活	<p>1. 身体の清潔の意義</p> <p>1) 人間にとっての身体清潔の意義</p> <p>2) 身体の清潔のための援助の必要性</p> <p>2. 身体各部の清潔の援助方法</p> <p>手順と根拠</p> <p>①全身清拭 ②手浴 ③足浴 ④洗髪</p> <p>⑤陰部洗浄 ⑥口腔ケア</p> <p>3. 療養生活における衣服の機能</p> <p>1) 生理的・社会的・心理的意義</p> <p>2) 病衣の種類と選び方</p> <p>3) 心理的意義</p> <p>4. 整容</p>	講義
6		<p>5. 清拭の援助の目的と基本動作</p> <p>1) 援助の目的と基本動作の関連</p> <p>2) 身体各部の清潔の援助方法</p>	グループワーク
7		<p>3) 洗髪</p>	演習
8	活動と休息	<p>1. 人間の活動の意義とそのメカニズム</p> <p>1) 生理的意義 2) 心理的意義</p> <p>3) 社会的意義 4) ボディメカニクス</p> <p>5) 活動と運動のメカニズム</p> <p>2. 活動・運動に対する援助</p> <p>1) 関節可動域と阻害されるADL、可動域訓練</p> <p>2) 移動・移送 (片麻痺を含む)</p> <p>(1) 車椅子、ストレッチャーへの移乗、移送方法、移乗用リフト</p> <p>観察のポイント</p> <p>(2) 歩行介助：杖・歩行器の適合・不適合の観察ポイント</p> <p>3) 関節可動域 (ROM) と阻害されるADL、可動域訓練</p> <p>4) 機能評価：FIM、MMT、BRS</p>	講義

		<p>3. 休息・睡眠</p> <p>1) 休息とは</p> <p>2) 睡眠の種類とアセスメント</p> <p>4. 援助の基礎知識</p> <p>1) 睡眠の援助の実際</p> <p>2) 睡眠薬を用いる場合の援助</p>		
9		<p>5. 移乗、移送の実際（片麻痺を含む）</p> <p>1) 端座位から車いすへの移乗、移送 右麻痺のある患者 車いすからベッドへの移乗</p> <p>2) 右麻痺患者の杖歩行介助</p> <p>3) ベッドからストレッチャーへの移乗、移送スライディングシート使用 ストレッチャーからベッド上への移乗</p> <p>4) 主な関節可動域と可動域訓練</p>	演習	
10 11	清潔・衣生活	<p>6. 清拭の実際</p> <p>1) 臥床患者の清拭剤を用いた上半身 清拭、寝衣交換</p>	演習 (技術 チェック)	
12	排泄	<p>1. 人間の健康と排泄</p> <p>1) 排泄の意義</p> <p>(1) 排泄とは</p> <p>(2) 排泄の意味</p> <p>①生理的 ②心理・社会的</p> <p>2) 排尿・排便の生理学的メカニズム</p> <p>(1) 排尿のメカニズム</p> <p>(2) 排便のメカニズム</p> <p>3) 排尿・排便状況のアセスメント</p> <p>(1) 尿・便の性状</p> <p>(2) 排尿を阻害する要因</p> <p>(3) 排便を阻害する要因</p> <p>4) 対象の状態に応じた排泄援助</p> <p>(1) 自然排尿・自然排便の援助</p> <p>(2) 医療処置を伴う排尿・排便の援助</p> <p>①導尿（一時的・持続的）</p> <p>②摘便</p> <p>③浣腸</p>	講義	

13		2. 便器・尿器を用いた排泄の介助 1) グリセリン浣腸	演習	
14 15		2) 持続的導尿（膀胱留置カテーテル）		
※ 時間外で実施	単位認定試験（45分）			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 			
備考	<参考文献>・看護がみえるvol.1 基礎看護技術 第2版			

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	日常生活援助技術演習	対象学生・時期	1年生・前期		
		講義時間（単位）	15時間（1）		
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 看護の必要性と根拠を明確にし、知識と統合し日常生活援助技術の基本を習得する 2. 基本技術（感染予防・安全・安楽を確保する技術など）を活用し、対象に適した日常生活援助技術を習得する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	入院患者の看護	1. 事例紹介（初めての入院） 2. スタンダードプリコーション 3. 療養環境の整備 （2人部屋 入院ベッド作成） 4. 医師の指示確認、安静度確認		演習	①
2	検査入院中の患者の看護	1. 看護方針の確認 2. 援助計画作成 看護方針の説明、看護・治療の協力 依頼、発熱時のトイレ移動の介助、 安楽な体位の調整（体位変換） 発熱、悪寒戦慄時の看護		グループ ワーク 演習	
3		3. 援助計画実施 振り返り評価・修正・実施			
4	患者の清潔保持への援助	1. 援助計画作成			
5		2. 患者の清拭、寝衣交換、シーツ交換 の実施			
6					
7	全6回の演習の振り返り	グループ毎に発表し、意見交換。			
8	まとめ（45分）				
評価方法	課題				
使用テキスト	・基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
備考					

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	フィジカルアセスメント		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面についてはフィジカルイグザミネーション（身体診査）の基本技法を系統的に習得する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	フィジカルアセスメント 総論	1. フィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの目的 3. フィジカルアセスメントの基本技術 1) 面接・問診 2) 観察 3) 測定		講義	①
2		4. フィジカルイグザミネーションの基本 1) 視診 2) 触診 3) 打診 4) 聴診		講義	
3	バイタルサイン	1. バイタルサインの測定とアセスメント 1) 意識 2) 体温 3) 呼吸		講義	
4		4) 脈拍 5) 血圧		講義	
5		2. バイタルサイン測定の実際		演習	
6					
7	呼吸器系の フィジカルアセスメント	1. 呼吸器系の構造と機能 2. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 肋骨下角・前後径 3) 胸郭可動性 4) 音声振盪 5) 横隔膜位置推定 6) 呼吸音 7) パルスオキシメーター		講義	
8	循環器系の フィジカルアセスメント	1. 循環器系の構造と機能 2. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 中心静脈圧の推定 3) 頸動脈の触診 4) 心尖拍動 5) アレンテスト 6) 爪床圧迫テスト 7) ホーマンズ徴候 8) 心音		講義	
9	胸部の聴診	1. 呼吸音と心音の聴診		演習	
10	腹部・消化器系の フィジカルアセスメント	1. 腹部・消化器系の構造と機能 2. 腹部・消化器系の フィジカルアセスメント		講義	

		1) 問診 2) 腹部の視診 3) 腸蠕動音 4) 腎臓の叩打診 5) ロブシング・ローゼンシュタイン 徴候 6) 反跳痛・筋性防御 7) 肝臓の触診 8) 腹水の観察		
11	腹部・消化器系の 聴診・触診・打診	1. 腸蠕動音の聴診 2. 腹部の打診 3. 腹部の触診	演習	
12	筋・骨格系の フィジカルアセスメント	1. 筋・骨格系の構造と機能 2. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 徒手筋力検査 2) 関節可動域検査	講義	
13	神経系の フィジカルアセスメント	1. 神経系の構造と機能 2. 神経系のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 感覚機能 3) 対光反射 4) バレー徴候 5) ロンベルク試験 6) 小脳機能検査 (1) 指鼻試験 (2) 指鼻指試験	講義	
14	特殊感覚の フィジカルアセスメント	1. 特殊感覚の構造と機能 2. 特殊感覚のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 目 3) 耳 4) 鼻 5) 舌	講義	
15	単位認定試験 (45分) まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・基礎看護学 (2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・基礎看護学 (3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディア			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	フィジカルアセスメント演習		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 具体的な事例について臨床判断に必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を統合し習得する				
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当	
1	脈拍・血圧の測定	1. 脈拍・血圧測定の タスクトレーニング	演習	①	
2	症状・徴候からの フィジカルアセスメント	1. 腹痛時の フィジカルアセスメント	講義 個人ワーク		
3			演習 GWワーク		
4			GWワーク 講義		
5			2. 息苦しい時の フィジカルアセスメント		
6		演習 GWワーク			
7		GWワーク 講義			
8		まとめ（45分）			
評価方法	課題				
使用テキスト	・基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディア				
備考					

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	看護の展開方法		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間（単位）	30時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	看護過程とは	1. 看護過程と問題解決法 2. 看護過程とクリティカルシンキング 3. 看護過程とリフレクション 4. 看護過程と看護理論の関係		講義	①
2	看護診断	1. 看護診断とは			
3		2. 看護診断の構造の理解			
4	情報収集	1. 情報源 2. 情報の種類 1) 主観的情報 2) 客観的情報 3. 情報の収集方法 1) インタビューによる情報収集 2) 観察による情報収集 3) フィジカルイグザミネーションによる情報収集 4) すでにある情報源の活用やカンファレンスでの情報収集 4. 情報に対する倫理的配慮			
5	看護過程の構成要素	1. アセスメント（情報の解釈・判断）			
6		1) ゴードンの機能的健康パターンを用いた考え方			
7		2. 関連図			
8		3. 看護診断（問題の抽出）			
		4. 優先順位 1) 目標と期待される成果			
9		5. 計画（具体策の立案）			
		6. 実施			
10	事例演習	7. 評価			
11		(成人・糖尿病)を用いた看護過程の展開			
12					
13					

14	事例演習	(成人・糖尿病)を用いた看護過程の展開		
15				
評価方法	課題			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・根拠がわかる 疾患別看護過程(第4版) 南江堂 ・看護診断ハンドブック 第12版 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	診療に伴う技術		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①教官☆				
科目目標	1. 診療と検査の意義・目的を理解し診療・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する 2. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する 3. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	診療の補助技術と看護師の役割	1. 検査・処置の意義 2. 検査・処置における看護師の役割 1) 検査・処置の説明 2) 苦痛の軽減 3) 危険の察知と対処 4) 医師や技師との連携 3. 検体の取り扱い 1) 6 R 2) 必要量 3) 保存方法 4) 時間 4. 血液検査の看護 1) 採血法の基礎知識 (1) 血液検査の種類 (2) 採血に適した静脈の位置と名称 (3) 注射薬の取り扱い 2) 安全な採血 (1) 採血時の合併症 (2) 安全安楽な採血方法と根拠		講義	①
2	静脈血採血の実際	1. シリンジを用いた静脈血採血 2. 採血ホルダーを用いた静脈血採血		演習	
3	薬物療法時の看護師の役割	1. 正しい与薬 1) 与薬の目的 2) 与薬の基礎知識 3) 看護師の役割 4) 薬剤・患者確認 2. 薬の管理 1) 毒薬 2) 劇薬 3) 麻薬 4) 血液製剤 5) 抗悪性腫瘍薬		講義	

	与薬の方法	<p>1. 経口与薬・口腔内与薬</p> <p>1) 経口与薬・口腔内与薬の適応</p> <p>2) 内服薬の種類</p> <p>3) 与薬方法 4) 服薬支援</p> <p>2. 吸入 3. 点眼 4. 点鼻</p> <p>5. 経皮的与薬 6. 直腸内与薬</p> <p>7. 注射</p> <p>1) 注射の種類</p> <p>2) 注射器・注射針の種類と選択</p> <p>8. 輸血管理</p> <p>1) 輸血の目的 2) 輸血の基礎知識</p> <p>3) 輸液時の看護師の役割</p> <p>4) 輸血時の看護</p>		
4		<p>9. 注射の方法</p> <p>1) 皮内注射 2) 皮下注射</p> <p>3) 筋肉注射 4) 静脈内注射</p> <p>5) 点滴静脈内注射</p> <p>10. 注射の準備</p> <p>1) ミキシング 2) プライミング</p> <p>3) 三方活栓の取り扱い</p> <p>4) 点滴管理：滴下調節、観察</p>		
5		<p>11. 筋肉内注射</p> <p>1) アンプルからの吸い上げ</p> <p>2) 筋肉注射モデルを用い上腕（三角筋）への注射実施</p> <p>3) 使用物品（感染物）の取り扱い</p>	演習	
6		<p>12. 点滴静脈内注射</p> <p>1) バイアルからの吸い上げ</p> <p>2) ミキシング 3) プライミング</p> <p>4) 点滴静脈内注射モデルを用い、翼状針による点滴静脈内注射の実施</p>		
7		<p>5) 刺入部の固定・滴下速度調節</p> <p>6) 使用物品（感染物）の取り扱い</p>		
8	単位認定試験（45分）			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	診療に伴う技術演習	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	①教官☆			
科目目標	1. 共通基本技術を活用し、安全で確実な与薬の基本技術を習得する 2. 対象の健康状態に応じた援助技術の変化を理解し輸液の基本技術を習得する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	体調変化が見られた患者の看護	1. 事例紹介 2. バイタル測定・観察 3. 医師の治療方針の確認（検査による精査） 1) 検査と発熱による検査・治療の必要性 2) 検査の指示受け （1）検査目的・方法の確認 3) 患者の健康状態と検査項目の関連	演習	①
2	静脈血採血検査実施	4. 真空採血管による採血実施		
3	薬物療法と看護	1. 患者の健康状態と検査結果の関連 1) 検査結果と身体状態のアセスメント 2. 医師の治療方針の理解 1) 医師の治療方針の指示確認 2) 薬物療法の目的、方法、副作用の理解 3. 薬物療法時の看護計画作成	グループワーク	
4	援助計画表を基に模擬患者への与薬	1. 経口与薬	演習	
5		1. 患者の状態のアセスメント 2. 点滴静脈内注射 1) 薬剤準備（バイアル） 2) ミキシング 3) プライミング 4) 点滴静脈内注射の実施 5) 滴下調節		
6				
7		3. 輸液ポンプ・シリンジポンプ 1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ使用時の観察 2) 排泄・検査のため車椅子移乗・移送		

8	まとめ (45分)			
評価方法	課題			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I 医学書院 ・ 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II 医学書院 ・ 系統看護学講座 別冊 臨床検査 医学書院 			
備考				

☆：実務経験のある教官等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	看護研究		対象学生・時期	2年生・前期
			講義時間（単位）	15時間（1）
講師名	①教官☆			
科目目標	1. 看護研究の意義と必要性を学び、研究方法の基礎を理解する 2. 研究クリティークの方法を理解し、適切な文献の活用ができる 3. 自己の看護実践の意味づけができる			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	研究と実践活動	1. 事例研究とは 2. 実践の中から発見する研究課題	講義	①
	研究の種類と特徴	1. 研究の問いと研究デザインの関係 2. 研究デザインの種類 3. 質的研究と量的研究		
2	事例研究の重要性	1. 看護実践と研究 2. 事例研究の特徴と留意点		
3	事例研究の進め方	1. 課題の見つけ方 2. 研究テーマの絞り込み （研究計画書の作成） 3. データ収集 4. データ分析・結果のまとめ方 5. 研究成果の発表		
4	研究成果の活用と実践	1. 看護研究のクリティーク 2. ケーススタディ作成	個人ワーク	
5				
6				
7				
8		3. 論文発表（45分）	発表	
評価方法	課題			
使用テキスト	・基礎看護学4 看護研究 メディカ出版			
備考	<参考文献> ・黒田裕子の看護研究step by step 第5版 医学書院			

実習科目	基礎看護学実習	対象学生・時期	1年生・後期
		講義時間(単位)	90時間(2)
実習目的	受持ち患者への看護実践に看護過程の展開の技術を適用し、問題解決技法の基礎を理解する。		
実習目標および内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象に必要な情報を総合的に収集できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象に合わせた情報収集ができる。 2) ゴードンの機能的健康パターンの枠組みに沿って情報の整理ができる。 2. 収集した情報から看護上の問題を考えることができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連づけた情報を科学的根拠に基づいて解釈・分析ができる。 2) 仮診断ができる。 3) 各機能的健康パターンから関連性のある問題を統合することができる。 3. 対象の状態に合わせた看護問題が明確にできる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護上の問題(看護診断)・共同問題を正しく表現できる。 2) 複数ある看護診断の優先順位を根拠に基づいて決定できる。 4. 対象の状態に合わせた看護計画を立案できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 確定した看護診断から目標を設定できる。 2) アウトカム(期待される成果)の設定ができる。 3) 対象の状態に合わせた具体的な看護計画を立案できる。 5. 看護計画に沿った看護を実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 立案した看護計画が実施可能か判断できる。 2) 看護計画に沿った実施ができる。 3) 対象の反応を観察しながら実施できる。 4) 適切な時期に簡潔・明瞭に報告できる。 5) 実施した内容および観察した内容を正確に記録できる。 6. 実施した看護を評価できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) アウトカム(期待される成果)が到達できたかを判断できる。 2) 対象の状態の変化に応じて計画の追加・修正ができる。 3) 看護実践を振り返ることができる。 7. 看護実践の振り返りを通して自己の課題を明確にして改善できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人およびチームと良好な人間関係を築くことができる。 2) 主体的・効果的に学習できる。 			
評価方法	評価表による評価		